

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科					
科目名称	自然体験実習				授業形態	実習				
科目コード	710067	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	伊志嶺 朝紀								ICT活 用	
授業概要	<p>本授業は、専門課程である環境園芸は、広く自然に関わる職種であり、人材である。その中で「自然体験活動」という分野は、課題発見・解決、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、社会的責任、自己管理能力などが含まれており「人と人、人と自然が共生した社会」の必要性について学びます。</p> <p>主な内容として、協調性を高めるコミュニケーションプログラム、五感を使った自然体験型プログラム、野外活動の体験とスキル、環境教育プログラムなどがあります。</p> <p>その他にも、国際目標である「SDGs=持続可能な開発目標」の視点も意識してこれらの実習内容に取り組みます。</p> <p>これらのことを学び、人間力を高め、社会人として、そして専門課程である環境園芸の分野にも活かした人材育成を目指します。</p> <p>※人間力：多様な人たちと友好なコミュニケーションを望み、自然共生社会の一員として、自ら考え、良き判断をもとに主体的に行動できる力</p> <p>【実務経験】一般社団法人アイ・オー・イー勤務（設立1986年）勤務年数26年 自然体験教育、野外教育、環境教育を中心に子どもから成人まで体験活動の企画、運営、指導を行っております。 主に熊本、九州を拠点とし、その他にも北海道、沖縄、屋久島など地域ならではの自然や文化をフィールドとしております。 また、農林水産省が推進する地域づくり事業等にも自然体験活動を活かし、地域活性化にも取り組んでおります。 そのような経験から基づく根拠、事例などを講義内容に盛り込み、解説し、講義内容に厚みを持たせるようにしております。</p>									
関連する科目										
授業の方法と進め方	<p>自然体験活動実習における指導手法は、「アクティブラーニング」のラーニングピラミッドに対応した学習指導法で行います。以下のよう な手順で進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の講義による内容の理解。</li> <li>・テキストによる基礎的理解。</li> <li>・見て・聞いて・触れて体験とおした理解。</li> <li>・体験した内容を個人で考察する。</li> <li>・個人からグループへ共有する。</li> <li>・グループワークによるデモンストレーション発表へ向けた内容の構築をする。</li> <li>・デモンストレーションは、他者への理解を深めるための技術を磨く。</li> <li>・デモンストレーション後のふりかえりは、個人、グループ、他者からの意見を共有し個人の理解も深める。</li> </ul> <p>デモンストレーションの構築におけるグループワークは、以下の「PDCAサイクル」により主体性を持って取組めるように進めます。 【PDCAサイクル】矢印はP→D→C→A→P…と繰り返される。更には継続することでスパイラルアップ（回転しながら上昇＝改善しながら 改良・向上する）となる。</p> <p>→Plan：計画（目標を達成するまでの計画作成） →Do：実行（計画を実行する。評価・分析（Check）できるように活動内容を記録し、内容や課題を解決する） →Check：評価（計画どおりに進んでいるか、目標の達成を評価する。また結果の達成、未達成を客観的に見て他者の評価なども交え る。 →Action：改善（評価を見ながら、良かった点は継続的し、悪かった点はどのように改善すべきかを考える。この計画を続けるか、修 正するか、中止するかも考慮し、改善すべき点を次のPlanに落とし込み、PDCAサイクルへつなげていきます。）</p>									
授業計画【第1回】	<p>第1回 アイスブレイキング法による雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アイスブレイキングとは（配布資料）</li> <li>●実技体験（4つの窓、コミュニケーションゲーム、レクゲーム、その他）</li> <li>●ふりかえり</li> </ul>									
授業計画【第2回】	<p>第2回 自然体験活動の理念（座学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然体験活動の必要性</li> <li>●指導者（伝える人）の必要性</li> <li>●自然体験活動と専門課程との関連</li> </ul>									
授業計画【第3回】	<p>第3回 自然と人、社会や文化の関わり（プレゼンテーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の育った地域のことを調査</li> <li>●学び舎となる宮崎県の自然について調査</li> <li>●グループワーク</li> <li>●発表</li> <li>●ふりかえりと共有</li> </ul>									
授業計画【第4回】	<p>第4回 自然への導入～自然体験プログラムの実際～（手法：ネイチャーゲーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●感性の体操（視覚、聴覚などを使った体験）</li> <li>●マイツリー（視覚を閉ざした他の感性を活かした体験。またペアの信頼関係も築く）</li> <li>●目隠しトレイル（視覚を閉ざし、触覚を頼りに達成する体験）</li> <li>●カモフラージュ（日常的な視野をより自然に向けると見えてくる感覚を体感。）</li> <li>●ふりかえりと共有</li> </ul>									
授業計画【第5回】	<p>第5回 創造制作プログラム（ネイチャークラフト）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然物を使った創作活動を行う。</li> <li>●自然物それぞれにある特徴を知る、活かす。</li> <li>●体験活動の思い出となり、季節、場所などへの思いをつなぐ。</li> </ul>									
授業計画【第6回】	<p>第6回 協調性と信頼関係の必要性（手法：イニシアティブゲーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●イニシアティブゲーム（協調ゲーム）の体験</li> <li>・アクティビティ：ラインナップ、ディオシット、トラストファール、人間知恵の輪、モンスター</li> <li>●ふりかえりと共有</li> </ul>									
授業計画【第7回】	<p>第7回 人と自然環境保全の関係性（手法：プロジェクト・ワイルド）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●社会問題、環境問題を題材にした課題解決プログラム</li> <li>●グループワークによる作業</li> <li>●グループ発表、それぞれの共有</li> <li>●課題に対してのふりかえり、説明（講師）</li> </ul>									

授業計画【第8回】	第8回 安全管理に関わる指導者の意識 ●安全管理と安全指導（野外活動における危険の種類を知る。） ●危険予知のトレーニング（KYT法）資料配布
授業計画【第9回】	第9回 野外での自然体験活動～野外調理実習（着火、刃物の取扱い、安全管理） 野外調理に必要な環境づくり ●調理場設営（テーブル、水まわり、ごみ処理など） ●火気の取扱い（かまどづくり、火お越し、火の始末など） ●刃物の取扱い（刃物の使用法、薪割りのポイント、薪の管理など）
授業計画【第10回】	第10回 野外での自然体験活動～野外調理実習（衛生管理、計画、役割分担） ●野外調理献立作り ・野外調理に向くメニュー、材料、予算なども考える。 ●野外調理における衛生管理について ●食事作り（グループ毎に調理）
授業計画【第11回】	第11回 野外での自然体験活動～フィールド実践（リハートレッキング体験） ●実体験を通して、自然と関わるすばらしさを知る。 ●指導者としての意識 ・レクチャーの必要性、セフティートーク ・実施時の安全管理 ●ふりかえりと共有
授業計画【第12回】	第12回 野外での自然体験活動～野営の基礎（テント設営、管理） ●テント設営（地面、角度、整地、周辺物、動線の安全など） ●宿泊体験（実際に宿泊し、使用感を知る。） ●撤収や保管管理の方法を学ぶ。
授業計画【第13回】	第13回 野外での自然体験活動～体験プログラム（企画立案） ●アクティビティの実践実習（各班60分間の企画） グループ毎にネイチャーゲームをプログラム立案し、指導側として実習する。 ★進行手順 ①挨拶、自己紹介、注意事項②つかみ③体験／ネイチャーゲーム④ふりかえり 実施者＝伝えたかったこと、工夫したこと、やれていたか。 参加者＝体験を通しての感想と共有
授業計画【第14回】	第14回 野外での自然体験活動～体験プログラム（指導運営の実践） ●アクティビティの実践実習（各班60分間の企画） グループ毎にネイチャーゲームをプログラム立案し、指導側として実習する。 ★進行手順 ①挨拶、自己紹介、注意事項②つかみ③体験／ネイチャーゲーム④ふりかえり 実施者＝伝えたかったこと、工夫したこと、やれていたか。 参加者＝体験を通しての感想と共有
授業計画【第15回】	第15回 ふりかえりとまとめの重要性（気づきの共有） ●講義のすべてを記録写真をとっておく。 ●個人の感想、共有 ●講師のまとめ
授業の到達目標	・環境教育プログラムを通して、人と人、人と自然との関わりの大切さを理解する。また、社会的責任について理解する。 ・体験型プログラムを通し、自然体験活動が情操教育における必要性を実感する。 ・指導者へ意識：自然体験の基礎知識、指導法、安全管理知識などを習得する。 ・野外活動の技術を実践とおして習得する。 ・上記項目を通して、コミュニケーション力、協調性、また主体的に考える力を身につける。
学位授与の方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外の学習【予習】	【予習】 ・野外演習の物品や服装の準備は、安全管理面などからも重要であり、その必要性を理解、確認し備える。(30分) ・グループでの課題取り組みにおける、翌日の実習のスムーズな進行のために、必要な準備事項においては、各グループごと備えておく(30分)
授業時間外の学習【復習】	【復習】 ・日々の配布資料等をふりかえり、疑問点などあれば翌日に質疑をし、理解を深める。(30分)
課題に対するフィードバック	配布資料は、ファイリングをし、講義内容を項目、時系列でふりかえられるように綴る。 レポート(ふりかえりと感想)はコピーをとり、評価の一部とする。 原本は、本人に返却し、自分の評価・変化を確認できるようにする。 体験実習においては、都度、自他による感想・意見・ふりかえりなどで評価、共有する。
評価方法・基準	・実践による技術習得(70点) ・自己評価(感想文)(30点)
テキスト	参考資料による引用と自主作成による配布資料。

参考書	<p>※以下のテキスト等から必要に応じた内容を配布するので購入の必要はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出版社：NPO法人自然体験活動推進協議会 価格：一般価格：1,100円 発行日：2020年8月改訂</li> <li>・「プロジェクト・ワイルド-水辺編-」（非売品）著：一般財団法人 公園緑地管理財団</li> <li>・「身近な自然から気づく きっかけプログラム集」（非売品）著：社団法人日本環境教育フォーラム／WEB日本財団 図書館</li> </ul>
備考	<p>授業中に自己評価（感想文、振り返り）などを出席管理に使用いたします。</p>